

## 平成25年度第4回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 平成25年度第4回木更津市史編集委員会
  2. 開催日時 平成26年 3月26日(水) 午後2時00分～4時00分
  3. 開催場所 木更津市役所6階委員会室
  4. 出席者 市史編集委員会委員 出席8名  
金子馨委員長、三浦茂一副委員長、成田篤彦副委員長、池田忍委員、  
川戸貴史委員、實形裕介委員、石井良幸委員、小河原茂之委員  
教育委員会事務局5名  
初谷教育長、本多教育部次長、高橋文化課長、小高副主幹、中能副主幹、  
寺原事務員
  5. 議題及び公開又は非公開の別  
報告1 第3回木更津市史編集委員会議事内容(公開)  
報告2 調査・研究の進捗状況(自然部門、歴史部門)(公開)  
議題1 『図説 木更津のあゆみ』の活用(公開)  
議題2 『木更津市史』編集基本構想及び基本方針(案)の策定  
(1) 市史編集組織(案)について  
(2) 『木更津市史』編集基本構想及び基本方針(案)について  
その他(公開)  
(非公開の理由)
  6. 傍聴人 なし。
- 事務局(高橋文化課長)

定刻となりましたので、平成25年度第4回木更津市史編集委員会を開会します。本日の進行を努める文化課高橋です。よろしくお願いいたします。

本日の市史編集委員会は、椛山委員、島立委員からご都合により欠席の連絡がありましたので報告します。

会議は、附属機関設置条例第6条第2項の規程により成立しております。また、本日の会議は公開で行いますのでご了承下さい。

はじめに、初谷教育長よりごあいさつ申し上げます。

初谷教育長 第4回木更津市史編集委員会として今年度最後の委員会となります。平成25年度も残り少なくなり、大変あわただしい中で委員の皆様にはお集まりいただき誠にありがとうございます。

1月に前回の委員会が行われましたが、その後も調査・研究を活発に続けて

いただいております、あわせてお礼申し上げます。

現在、郷土博物館金のすずにおいて平成 26 年度春企画展「上総国古文書」(3 月 15 日～6 月 15 日)として大勢の方が来館しており、これに関連して 2 つの講座(3 月 23 日・26 日)を開催しています。私も 23 日に参加して、改めて歴史を編む上で資料の大切さを痛感しました。あわせて歴史を編むという事業の大切さ、難しさを感じました。

本日は、報告事項 2 件、協議事項 2 件用意しましたので、来年度につながるようご意見・ご指導お願いします。

事務局(高橋文化課長)

金子委員長より、ご挨拶をたまわりたいと存じます。

金子委員長 年度末で忙しい仕事をお持ちである方もおいででしょうが、ご出席ありがとうございます。

今回の議題は、『図説 木更津のあゆみ』の活用、市史編集事業に取り組む組織づくりと編集基本構想及び基本方針について、事務局から(案)を提示されておりますので討議をお願いします。

事務局(高橋文化課長)

ありがとうございました。最初に、資料の確認をお願いします。本日の編集委員会次第、出席者名簿、席次表、報告事項として 1 から 4 ページまで、議題として 5 から 24 ページまで、編集委員会日程を 25・26 ページに載せております。調査・研究の進捗状況として、後ほど実形委員から報告をお願いします。

それでは議事に入ります。議長は委員長が務めることとなっておりますので、これからの議事進行を、金子委員長をお願いします。

金子委員長 これより議長を務めます。本日は、2 つの報告事項と 2 つの協議事項について事務局から提出されておりますので、はじめに報告事項について事務局より第 1 号、第 2 号一括で説明願います。

事務局(高橋文化課長)

報告第 1 号として、今年度第 3 回木更津市史編集委員会議事内容について報告します。第 3 回木更津市史編集委員会は、1 月 30 日(木)午後 2 時から実施しました。内容は 2 つの報告と 2 つの議題について協議しました。

委員の皆様から出された主な意見と事務局からの回答内容については、資料のとおりです。

『図説 木更津のあゆみ』の活用方法として Web 版作成については、予算や著作権の問題、公開内容やその方法など更なる検討を必要としますが、Web

版を作成するという事について了承いただきました。今後は、公開に向けて委員の皆様と協議しながら進めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

次に、新たな『木更津市史』の編集基本構想及び基本方針（案）の策定について、ご検討いただきました。参考として、事務局から『図説 木更津のあゆみ』を編集した時の編集基本構想及び基本方針について提示し、成田副委員長から『木更津市史』自然編の編集基本構想及び編集方針について意見を出していただきました。それを踏まえて、委員の皆様から市史編集組織を先に決めることや、事務局へ新たな『木更津市史』の編集基本構想及び基本方針（案）の提出を求められました。

事務局から新たな『木更津市史』の編集基本構想及び基本方針について委員の皆様様に時間をかけて検討いただきたいこと、『図説 木更津のあゆみ』の活用方法や評価をあらためて出していただけるよう要望しました。

追加として、第1回木更津市史編集委員会で、梶山委員から今までの市史編集関係資料の保管状況の質問がありました件について、図書館で昭和47年度刊行分の直筆原稿、編集日誌、会議録、掲載・未掲載写真のプリント、印刷原板のほか、木更津市史編集委員会のゴム印等を保管してあることを報告します。

なお、前回の木更津市史編集委員会の詳細について、会議録を市のホームページで公開しております。会議録の希望があれば、委員会終了後に事務局まで申しでてください。

報告第2号は、現在行っている自然部門の調査と、歴史部門として図書館と郷土博物館金のすずにおける資料目録作成に関する2月の実施状況を資料4ページに掲載しています。

調査状況は、自然部門を成田副委員長、図書館の調査を三浦副委員長、郷土博物館金のすずの調査を實形委員、それぞれから経過報告をお願いします。

金子委員長     それでは、事務局から要望がありましたので、はじめに成田副委員長、状況報告をお願いします。

成田副委員長   自然部門の報告ですが、2月26日、3月19日に調査を調査員2名で行いました。調査場所は、泉川、中六等です。調査内容は、主に両生類の分布を調べました。ニホンアカガエルの卵塊を中心に搜しました。

2月26日の調査では、以前の調査で非常にたくさん見つかった場所を重点的に調査しましたが、矢那の地獄沢でニホンアカガエルの卵塊5個を発見しただけです。また、トウキョウサンショウウオの卵のうも、以前は見つかった場所も詳細に調べましたが見つかりませんでした。今年は、寒い時期が続い

たことと、雨が少なかったことが原因と思っています。なお、矢那地獄沢と山本七曲でイノシシ各1頭と遭遇し、写真撮影しました。

3月19日の調査は、主に真里谷の泉川流域でニホンアカガエルの卵塊とトウキョウサンショウウオの卵のうを調べ、それぞれ、たくさんの卵塊・卵のうを確認することができました。ただ、卵塊・卵のうがあった場所で、アライグマ、タヌキ、イノシシの足跡が必ずありましたので、ニホンアカガエルやトウキョウサンショウウオは、アライグマなどにかかり食べられてしまっていると推測されました。特にアライグマの足跡が非常に多かった印象が残っています。

その他、矢那のケヤキ並木にヤドリギがたくさん付いていて、3月19日の調査では、80羽のヒレンジャクと1羽のキレンジャクがいました。この小鳥は冬鳥で、野鳥家をひきつける大変魅力のある鳥です。後日、確認場所へ訪れると約140羽おり、例年になく多く来ていると思いました。

今後は、系統的に詳細な調査計画を立てていかなければならないと考えております。

金子委員長 ありがとうございます。つづいて、三浦副委員長、3月分も含めて状況報告をお願いします。

三浦副委員長 資料4ページにありますが、図書館の調査は2月に旧中郷村役場文書の資料目録作成を行いました。手書き目録は終了し、データ入力最中です。ダンボール箱20箱分あり、細目録は作っていませんが、今後の市史編集には大いに役立つものと思います。近代から現代にかけての資料が多くあります。

3月からは、旧鎌足村役場文書の資料目録作成に入りました。これは戦後の資料が多く、若干明治時代の資料もあり、作業は途中まで進めています。

金子委員長 ありがとうございます。それでは、実形委員をお願いします。

実形委員 資料として用意したものが(郷土博物館金のすずにおける)今年度全ての活動報告です。市域に唯一藩庁のあった藩が請西藩で、その大名家の林家の文書整理を昨年末から始め、3月17日までに8回調査を行いました。

現状記録ということで、最初の出ている状態は不完全でしたが、保管されている現状の取り上げ記録をAからSまでの単位群を収納容器やまとまりごとにとりました。現状で687点の番号付与が終わっていますが、若干枝分かれする資料も出てくるので、およそ700点程度の資料が出てきています。

仮目録作成の進捗は、単位G群の途中までで、おおよそ3分の1程度終わっています。これは仮目録なので、全部終わってから同じ期間をかけて見直します。あとは、番号付与は終わったので、来年度以降は全点をデジタルカメラで

撮影し、一部を筆耕することになります。

中身は大名家の資料で、余り藩政資料はありません。初代藩主の忠英から、忠旭、忠交、忠崇の4代にわたって藩主の資料がたくさん出ています。前回の特別展(「幕末の木更津」平成25年11月2日(土)～平成25年12月26日(木)開催)で初代藩主の林忠英の肖像画が展示されたり、忠英関係の資料が出ています。残りは明治期以降の資料です。男爵家の資料で、主に家格再興の資料と、旧藩士たちの士族復籍願い関係の資料が出ていますので、藩士たちのデータベースができます。

金子委員長 ありがとうございます。事務局から前回の報告と3人の委員から調査・研究の進捗状況について報告いただきました。質問・意見あればお願いします。

金子委員長 特に質問がなければ、本日の議題について事務局の説明をお願いします。

事務局(高橋文化課長)

議題第1号の『図説 木更津のあゆみ』の活用について、資料の5から10ページです。前回の第3回木更津市史編集委員会でWeb版作成について、また今年度第1回の木更津市史編集委員会においても、『図説 木更津のあゆみ』評価という議題で講演会の開催や、図書館における貸し出し状況、有償頒布数等、同冊子の活用状況等について説明しました。

詳細は第1回の木更津市史編集委員会資料及び会議録を参照ください。今年度は波岡・西清川公民館の2館で『図説 木更津のあゆみ』に関する内容の歴史講座が開催されました。また、図書館での貸し出し状況は2月末までに62回ですが、館内閲覧のみで帰られる図書館利用者もみられるとのこと。また、同じ頃出版された同分野の本と比較して3～5倍の貸出率となっています。

有償頒布数は3月21日までで962冊、献本分をあわせると2,360冊です。また、『図説 木更津のあゆみ』編集発行の是非を問うような意見はありません。

これらの状況を踏まえると、『図説 木更津のあゆみ』のように木更津市の地域特性や地域資源など市の魅力を紹介するものを公表すれば、一定の評価を得て活用されることがわかります。

現在策定中の「木更津市教育振興計画」の中でも、本市の歴史や文化、また豊かな自然への関心を高めるため、『図説 木更津のあゆみ』をはじめとするこれまでの調査研究成果を活用した学習活動を支援することとしています。

そこで、木更津市史編集委員会委員や『図説 木更津のあゆみ』の編集に携わった方々に協力いただき、『図説 木更津のあゆみ』の内容に照らした講演会やフィールド散策等の実施を提案します。詳細は小高総括より説明します。

事務局（小高副主幹）

平成 24 年度第 3 回木更津市史編集委員会において、實形委員から『図説 木更津のあゆみ』を起点にして、市民学習の場を設けるなどの役割を果たす必要があるとのご意見が提出されておりました。この意見を踏まえ提案します。

平成 26 年度から、各年度 1・2 回程度の実施を考えており、来年度はすでに調査を開始している自然部門に関する講演会を行います。内容は、「盤洲干潟(仮題)」についてで、講師は成田副委員長や千葉県地域生物多様性センター職員等に依頼する予定です。その他として、資料②から⑩まで『図説 木更津のあゆみ』の内容に照らした案を考えております。

委員の皆様には、開催の是非や内容、方法や回数、順番などのご意見お願いします。

金子委員長 事務局より、議題第 1 号として『図説 木更津のあゆみ』の活用についての提案がありました。前は Web 版という方法を提案され、今回は学習会の実施ということで講演会やフィールド散策について説明がありましたが、委員の皆さんにはこのような活用の是非等についてご意見願います。

成田副委員長 来年度 4 月以降は、盤洲干潟の 1 回だけ実施するということですか。

事務局（小高副主幹）

7 月か 8 月のいずれかで、盤洲干潟に関する講演会を予定しております。平成 26 年度は 10 月 19 日にアクアラインマラソン 2014 が開催され、兼ね合いにもよりますが、9 月から 11 月頃に歴史部門として「江戸湾をめぐる武田氏(仮題)」の開催を提案します。

成田副委員長 講演会の開催時間は午後からということでしょうか。また何時間位の講演を考えていますか。

事務局（小高副主幹）

午後を予定し、概ね 2 時間程度の講演会を考えております。

川戸委員 資料 6 ページ②の場合は、巡検も提案されていますが、午前中から 1 日開催ということでしょうか。

事務局（小高副主幹）

②は講演会と、文化財散策を提案しております。同日開催ではなく、土曜日に講演会、日曜日に文化財散策とそれぞれ別な日の開催を考えております。また講演会は講師を依頼し、文化財散策は市職員対応を考えております。

川戸委員 講演依頼者について具体的な人選ないし依頼は全て事務局に任せるとということでしょうか。人選にあたって市史編集委員から推薦することはできますか。

事務局（小高副主幹）

今回は、提案するにあたり講演候補者として事務局で想定できる方を上げております。推薦いただければ、その方に依頼したいと考えます。

池田委員

このように『図説 木更津のあゆみ』を活用して市民の関心を促す試みはすばらしいと思います。中世編に関しては私の名前がありますが、ここは難しいです。今後は、具体的にニーズやテーマに関してどういうところをするのか、フィールド散策と組み合わせるのはよいと思います。できれば講演会の講師とフィールド散策するほうがよいので、講演会とフィールド散策を別の日にするのは（事務局の）負担も少ないし、地域の方々にはよいのかもしれませんが、同日のほうがかえってよい面があるのでは。実際に講演を行った講師と散策するほうが関心はより深まると思います。

事務局（小高副主幹）

市史編集委員の皆様の意見を伺いながら検討いたします。

實形委員

こういう方向でいくのは大変喜ばしいと思います。講師は必ず一人ということではなく、複数の講師で大きな統一テーマのうえで開催するということがよいのではないのでしょうか。

資料の中で気になるのは、②中世編の 2014 年に開港 400 年を迎えた木更津港とありますが、厳密に言うと木更津の港は中世からあります。横浜開港のような幕末期に外国に開かれた所は開港とするのはよいが、港がいつ開港したかはわかりませんが、ここで言う 400 年は大阪冬の陣から 400 年ということで、「木更津船由緒書」の木更津船という特権を持った船の就航した画期として捉えていることの説明をしないと、開港 400 年ではないと指摘されてしまいます。

木更津の港は中世から上総と対岸の鎌倉と結んでおり、木更津船就航 400 年ということで 1 年で終わらせず、数年は講演会を開催できます。「木更津由緒書」の内容に問題点はあるものの、幕府が由緒書の内容を認めれば事実になるので特権が維持されています。そして、幕府が消えるとともに木更津船の栄華も消えていくという大きな流れがあり、その点を説明します。イベントとして、木更津船 400 年を何年か続けるのがよいと思います。説明するときは、今年は木更津船就航の契機とされる大阪冬の陣から 400 年を付け加えてください。

石井委員

郷土博物館金のすずでも新年度（平成 26 年度）計画の中に（木更津船に関する）企画展があります。實形委員の指摘するとおり、仮称ですが開港 400 年という言葉が先に出てくるので、副題（木更津船就航 400 年など）をうまく入れ込んで、指摘される点が見えるよう周知いたします。

成田副委員長 資料 5 ページのその他で、講演会内容を『木更津市史研究（仮題）』等に掲載し、PDF化したものを Web 版で公開するとありますが、内容をダイジェスト版で公開するというのでしょうか。

事務局（小高副主幹）

ダイジェスト版ではなく、講演会内容全てを掲載する予定です。また、講演依頼するときは、講演内容と資料を公開することへの了承も合わせて依頼します。

金子委員長 『図説 木更津のあゆみ』の活用で具体的な提案を事務局から出され、それぞれ心配されること、配慮すべきことなど貴重なご意見をたくさん出してくださいました。事務局は、意見を考慮しながら進めていきたい。

議題第 1 号について、他に質問・意見がなければ議題第 2 号について事務局の説明をお願いします。

事務局（高橋文化課長）

議題第 2 号については、前回の木更津市史編集委員会において、木更津市史編集基本構想及び基本方針（案）の策定についてご検討いただいたところですが、その際市史編集組織を先に決めて欲しいという意見と、事務局側で素案を作成し、それをもとに協議したいとの意見がありましたので、事務局案ということで提出いたします。

はじめに市史編集組織（案）について意見をお願いします。詳細は小高総括より説明いたします。

事務局（小高副主幹）

資料の 11 ページです。昨年の 10 月 23 日に開催した第 2 回木更津市史編集委員会で、これまでの『木更津市史』の編集事業の議案の中で余り触れられていなかった項目を考慮しています。

部会は全部で 11 部会で、資料のとおりです。このうち指定文化財部会は、有形・無形文化財や、天然記念物についてまとめるので事務局が担当し、他の部会のそれぞれの専門員に執筆等を依頼して編集します。

各部会の委員は、数名から 10 名ほどで構成し、委員の中から各部会長を定めます。また木更津市史編集委員会は、編集内容や進捗状況等について適正であるかを審査するための第三者機関として位置づけされます。

また市史編集を市民との協働で行うため調査ボランティアを募集し、資料の調査・収集作業への協力を求めます。

部会の数も多く、調査ボランティアも依頼することから、市史編集室を設置



します。ただし、全ての部会を同時に設置するのではなく、調査実施計画をたてた上で設置時期を定めます。

金子委員長 前の編集委員会で市史編集組織を先に作ってほしいという意見をもとに、事務局より議題第2号(1)の市史編集組織の事務局案について説明がありました。今の事務局案を踏まえて委員の皆様の見解をお願いします。

川戸委員 古文書部会の古代・中世部会が一つの組織になっていますが、史料編で古代・中世を1冊にまとめるのは現実的だと思いますが、実際の調査の段階では古代史と中世史は必ずしも一緒に調査することは想定できないと思います。その際のすり合わせはどのようにすればよいのか、事務局の考えはありますか。

事務局（小高副主幹）

一つの史料編・通史編をまとめるに当たって一つの部会が携わるということで提案しており、詳細は決めておりません。

實形委員 古文書部会というのはあまり耳慣れないので、オーソドックスに古代、中世、近世という部会でいいのではないのでしょうか。古文書のカテゴリでくくるにしても、古代、中世は一緒にならないと思います。考古部会もあるので、ここは古代、中世、近世、近現代と歴史系部会はくくったほうが現実的です。その中で、史料編、通史編で一緒に掲載するものはあっても、まとめるときは部会ごとで行うのがよいと思います。問題は古文書調査を行うときにどうなるかという、近世と近現代資料が一緒にでてきてしまう。ほぼ資料の8割は近現代、2割は近世なので、近世の担当者が近現代の整理を行うようになるので、近世と近現代の調査は連携して行うようになると思います。部会はあるが調査するときは、調査体制をうまく考えなければならないことになります。

逆に中世は資料が限られていると思うので、市内調査よりも市外調査をどう組むのかということが大変だと思います。市内から新しく中世の資料がでてくれば大発見ですが、多分そのようなことはないと思います。

三浦副委員長 古文書の中に近代は入らないのですか。

事務局（小高副主幹）

近現代についても古文書として考えてください。（補足：取り扱う資料は写真・動画フィルム等映像記録や、戦争関係資料等古文書や民俗にも含めない資料も扱うと想定して古文書部会の枠をはずす。）

三浦副委員長 古文書部会と近現代部会が並ぶのがよくわからない。部会も古文書部会は時代別、他は資料領域別とバラエティーに富んでいます。市の実情に照らし合わせて市史編集でやるべきことに部会を置くという考えであれば結構です。です

が、近現代部会で古文書調査をやってはいけないとか言い兼ねないので、それでは駄目だと思います。近代の文書も古文書であり、現代の文書もすぐに古文書になる。実際の状況は、(資料調査すれば近世と近代の古文書が)一緒に出てくる。むしろ近世と近代の古文書が多いので、それを重点に置くべきだと思います。

現在、図書館で調査している役場文書は、戦後の資料もあるがこれも古文書です。戦後ですから、ガリ版刷りや本もあります。それらは時間が経つと摩滅していきます。役場文書が近現代文書の中では骨格となるので、それを全部やらないと編集事業の基礎が出来ません。例えば市役所の資料も刻々と古文書になるので、それに対してどのように対応するのか。資料の保存・整理・調査と、その上に立つ歴史の編集はつながっています。今までは資料の保存・整理は、今まで独立した学問として扱われなかったが、資料の保存・整理についても対策を講じなければならないが、木更津市はまだその前の段階で立ち止まっている状態だと感じています。こういった部会構成だとやりにくいのではないのでしょうか。今も博物館で調査している古文書は近現代もあるし、古文書部会とするならば当然近現代も古文書部会に入るので、古文書部会 1・2 とあって、近現代が古文書部会に入らないのは何を考えているのかわからない。部会構成がばらばらになっていると思います。宗教部会、建築部会にもそれぞれ歴史があるわけで、歴史部会が全時代を通じて資料を担当するということになる。そして具体的な状況に対応していいんだらうと思います。近現代部会は古文書部会 3 とすると、近現代部会はなくなる。近世部会もなくなるということなのでこれはおかしい。この部会構成は考え直したほうがよいと思います。

實形委員      オーソックスに歴史系部会を分けて設置すればいいのでは。自然と民俗があって、考古から近現代までと歴史系部会がある。宗教史や建築史、美術史の分け方をどうするかは、歴史系部会と一部は重なりながら部会を設置するということになるので、住み分けを検討しなければならないと思います。

金子委員長      全て歴史があるわけですね。

實形委員      現状ではオーソックスなところと、独自色で新しく本をだすということは意欲的でよいと思うのですが、本を作るにしても人が集まらなければ刊行は出来ないなので、この点も含めて考えなければならないと思います。

市域に残る色々なものを専門家の目で分析して、それを分かりやすくして残すことは大切なことです。専門的な部分は、専門分野の人が結集して行わなければならないと思います。

資料調査の進め方は部会を越えて調査会を組織する。資料の組織(案)では、うまく表せないのですが、たとえば調査ボランティアに調査会が入るような感じになると思います。またボランティアだけでは無理があり、報酬の発生する調査員がいて調査を進める。史料編を出すときに古文書の筆耕・筆写(翻刻)してもらった作業を含めて行える調査員が数十人いて、その中にボランティアが含まれるような組織が理想です。調査執筆員は核になる人がいればよく、それを支える調査員を確保しなければならないということが課題になります。調査員も20人、30人ということになるでしょうから、調査は事務局が調整しながら定期的に実施するようになると思います。

また、自然と地誌で一つの部会になっているが、これは一つでよろしいのでしょうか。

成田副委員長 地誌は地史の間違いではないかと少し戸惑っています。自然では、広辞苑に掲載されているような風土記に関することは考えておりません。自然は自然部会で良いのではないのでしょうか。

實形委員 自然部会と民俗部会でいいと思います。民俗と食物が一緒になっているが、土地の食べ物は民俗で扱うので出なくてもいいと思います。地誌の扱いは全体の中で、地誌の部分の編をどこに含めるかで部会を落ち着かせる。自然、民俗、考古、古代、中世、近世、近現代があって、それ以降特殊な部会を検討します。宗教史や建築史、美術史をどう組むのか、金石や石造物も前の部会と係ってくるので、それをどうするのか整理しつつ今のところ特殊なものをまとめればよいのではないのでしょうか。

池田委員 率直に言うと、ここまで分けて部会を想定するのは無理だと思います。建築、美術、彫刻も含めて一体で考えていったほうがよく、このように分けるのは逆に難しいと思います。大きなくくりの中で連携しながら考えたほうが現実的だと思います。

金子委員長 市史編集部会としては、自然、民俗、考古から近現代までの(歴史系)部会としてその他の特殊なものについては検討するということですが、その他いかがでしょうか。

事務局(小高副主幹)

委員皆様の意見を踏まえながら市史編集組織(案)については調整します。なお、本日欠席の島立委員から事前に意見を受けております。

内容は今回提出した事務局案をもとに部会を立ち上げ、ある程度基礎調査を進めたのちに、木更津らしさを出すための構成などを考えるのがよい。

民俗に関する調査については、平成 26 年度から簡単な調査に入りたいとのことでした。

また、部会の構成も、調査によっては各部会で重なるものが考えられるので、例えば民俗部会と建築部会構成員や宗教部会と建築部会の構成員を兼務にする方法もあるとのことでした。ここに報告させていただきます。

こうしたご意見も含め、市史編集組織（案）について、次回以降改めて提案いたします。

金子委員長    たくさんの意見が出されました。基本的には『木更津市史』として出されるものについて部会を分けてもらいました。再度検討して、委員の意見を集約して改めて提案することによってよろしいでしょうか。

事務局（小高副主幹）

一点確認したいのですが、實形委員から調査会の位置付けで、調査ボランティアに合わせるといった意見がありましたが、編集部会との関わり、位置付けについてどのようになるのか、具体的な意見をお願いします。

金子委員長    もう少し、市史編集組織（案）で気づかれる点があれば意見をお願いします。

成田副委員長    市史編集組織（案）では、調査ボランティアは市史編集部会に位置付けられるということによってよろしいでしょうか。また、ボランティアの他に報酬の発生する調査員も考慮しているということでしょうか。それぞれの部会にそれぞれの調査ボランティアと調査員が組織されるということですか。たとえば、民俗部会なら民俗部会に民俗調査ボランティアと調査員がいると捉えてよいでしょうか。

事務局（小高副主幹）

調査員について『木更津のあゆみ』編集では、それぞれ構成されている班（原始古代班、中世班、近世班、近現代班、民俗班、自然班）の調査員に調査・原稿執筆を依頼していました。事務局（案）として、部会員は資料調査・研究・原稿執筆を行い、これらの作業を補うため調査ボランティアの協力を得ると考えています。

川戸委員        市史調査ボランティアは、どのように参加される方が一般的でしょうか。

事務局（小高副主幹）

『図説 木更津のあゆみ』の編集では、ボランティアに登録されていた方は 18 名いました。具体的な作業は、石造物調査の際に除草作業にご協力いただきました。ただし、事務局側でうまく活用できなかった点が課題であったので、ボランティア協力のあり方についても意見をいただきたい。

川戸委員 中世に限れば、調査は基本的に古文書の解読・撮影です。活字化されているものが多いので、活字資料の探索が中心的な作業になります。そうした場合、ボランティアに協力してもらいイメージがありません。むしろ大学院生のような研究に携わっている人に調査参加してもらいのが基本的イメージです。それとは別に、ボランティアの方からどのような点で協力してもらいかわかりづらい。もちろん部会によっては違ってくると思います。

事務局（小高副主幹）

（ボランティアのあり方について）具体的なものはありませんが、市民ボランティアは、今回の木更津市史編集事業が市民との協働で編集を進めることを前提としています。

實形委員 市民にどう参加してもらいのかは簡単ではありません。どういう仕事をするのか、（ボランティアを）お願いしただけでは人材は集まりません。どういう仕事で、その仕事が出来た人を集めるのか、ボランティアでは難しいと思います。ただ市内には手伝っていただける方は多いと思うので、携わり方はよく考えなければいけません。一番想定されるのは、市内公民館で古文書（歴史）講座をやっている人が近世文書を読めるとか、その位が参加できるレベル。他では簡単には協力できないと思います。協力してもらいためには研修が必要です。この点も考えながら、具体的に他の自治体での市史編集活動を色々な分野でモデルケースとして調べるのがよいでしょう。一番行っているのは近世文書なので、近世文書の整理・解読レベルで公民館活動の延長線上で協力してもらいのがよくあることだと思います。それを基点に他の分野へどう広げるかは簡単にはいきません。多分、写真撮影などは市民の中でプロ顔負けのような人もいるので、撮影協力はお願いできると思います。自然だと海に詳しい人や、漁業関係者に携わってもらいなど色々あります。

成田副委員長 他の自治体では、自然だと見分けやすい鳥やカエルの卵塊などをデジタルカメラで撮影してもらっています。その時にちょっとした研修が必要ですが、撮影したときにカエルであれば、例えばニホンアカガエルとヤマアカガエルを見分ける場所は背中線の線なので、そこだけは写真を撮る。そういったことをきちんと教れば、この人には〇〇地区のニホンアカガエルとヤマアカガエルの分布を調べてもらい。写真を撮り、撮影場所の位置を地図におとしてもらえば、その地区の分布図はできあがります。それ程難しいことではありません。カワセミなどもわかりやすいので写真撮影も必要ない。特定の種類は簡単にできるので、簡単な種類を部会で選び環境手法的に意味がある動植物をボランティア

で調査してもらうことはできますが、ボランティア保険への加入をお願いします。

事務局（小高副主幹）

今年度第1回木更津市史編集委員会において楢山委員から、各部会ごとで事務局と一緒に案文を作りながら調査方針などを相談するよう意見をうけました。ボランティアとの関わりについて川戸委員から中世では難しいと意見もあり、各部会が立ち上がったときに部会員と事務局の間でボランティアについて決めたい。またボランティア保険への加入手続きを事務局で進めます。

三浦副委員長 関連して、資料16ページの市史編集組織についてですが、(2)の中の別図1は資料11ページの市史編集組織のことでよいのでしょうか。

事務局（小高副主幹）

そのとおりです。

三浦副委員長 (2)の中に市史編集委員会は編集する『木更津市史』の内容が適正であるかなどを審査するための第三者機関として位置づけ(中略)部会の委員として兼務することは認めないとする方針が記載されています。また(3)では郷土研究者など、木更津の自然や歴史に関して深い学識を有する方々から、新たな市史編集についての指導、助言や連携を得られるよう開かれた組織体制を取ることを考慮しますとあります。具体的にどのようなかわかりませんが、一つ疑問なのは市史編集委員会が会議して部会を設置し、部会が活動する場合には部会と関係ないということになる。第三者機関でよいのか。そうであれば、市史編集委員を辞して部会に入りたい。兼任でもよいのではないのでしょうか。

近現代部会の部会員は、近世部会に参加できないのか。近世・近現代、場合によっては中世をあわせた資料調査プロジェクトなど、自由に活動が行えるようにしたほうがよいのではないのでしょうか。自然と歴史の二つには分かれるが、この組織(案)では、ただ活動を制限するだけで活動のための組織ではない気がします。もう少し検討が必要です。

實形委員 この組織(案)では市史編集部会が部会の上にあるということでしょうか。また市史編集部会と市史編集委員会の関係がわかりにくいです。

事務局（小高副主幹）

市史編集委員会は、以前から説明したように本市附属機関設置条例で定められています。この条例の規程に基づき、市史編集委員会は市史編集計画の審議と調査を行い、事業遂行に必要な事項を市長に答申又は建議することとなっています。その点を踏まえてご検討ください。部会に対する第三者機関は、木更津市史編集基本構想を定め、部会の活動が適正に実施されているか検証する立

場としての位置付けを考えています。

三浦副委員長 市史編集委員会委員と市史編集部会員の兼務についてはどうですか。

事務局（小高副主幹）

今のところ、事務局（案）として兼務は考えておりません。

実形委員 現状で、市史編集委員会委員になっている方々が抜けて、専門部会を運営するのは難しいと思います。どう携わるかよく考えないといけません。市史編集委員会と市史編集部会の一部が重なるようにせざるを得ないのではないのでしょうか。市の方針を再検討する必要があると思います。市史編集委員会が市史編集部会と切り離すと現実的ではありません。現状で、構成など詳細部分も事務局と一緒に検討しているので、携わり方を工夫していただきたい。

事務局（小高副主幹）

委員の意見を踏まえながら、市史編集部会のあり方を検討いたします。

金子委員長 熱心な討議ありがとうございます。市史編集組織の再検討と市史編集委員会との関わりについて問題があるのではという意見がありました。事務局にはこの点を踏まえて市史編集組織については改めて提案ください。

次の、議題第2号(2)の『木更津市史』編集基本構想及び基本方針（案）について事務局の説明をお願いします。

事務局（高橋文化課長）

議題第2号(2)についてですが、資料13から16ページに『木更津市史』編集基本構想及び基本方針（案）を、12ページに『木更津市史』通史編の刊行内容を、そして17から24ページに刊行計画を事務局案として提案しました。

編集基本構想及び基本方針についての内容は、『図説 木更津のあゆみ』の編集基本構想及び編集方針についてを参考に作成しています。

1の策定の趣旨は、現在策定中の木更津市基本構想に基づき記載しています。木更津市史の編集事業は、本市基本構想の施策の一つ「市民文化の充実」に位置付けられ、盤洲干潟や豊かな緑が広がる上総丘陵、国の重要文化財に指定される金鈴塚古墳出土品、木更津港を中心に栄えた江戸前文化などといった地域特性や、地域資源などの本市の魅力をあらわし、後世の市民に誇ることのできる『木更津市史』の編集を進めることとします。

2の市史編集の目的は、これまでの『木更津市史』は市制施行周年事業として刊行しましたが、今回は本市の基本構想の目標年次にあたる平成42年度、西暦2030年を目途に事業を遂行すること。これまでの刊行物では、網羅できなかった事柄も掲載すること。新たに資料調査・研究を実施し、最新の学問成

果に基づき、全国的視点に立った新たな市史編集を進めること。市民に対して、ふるさと意識や市民意識の高揚を図り、今後のまちづくりにいかすとともに貴重な遺産を次世代に受け継ぐこととします。

3 の編集方針は、広く市民に親しまれ生涯学習や学校教育等の教材としても活用できるような『木更津市史』であるとともに、研究者等の専門家にも活用できるような高いレベルの内容を保ちつつ平易な文章で読みやすいものにする。デジタルコンテンツなどを活用して、利用できる機会を増やすこと。市史編集で収集した資料の適正な保存・管理するとともに博物館の展示や学習会、講演会など、あらゆる機会を通じて市民に公開することとします。

4 の『木更津市史』の内容は、通史編、資料編、自然・地誌編で構成し、通史編は 5 冊、史料編は 10 冊、自然・地誌編は本編 1 冊に CD や DVD などを編集し、この他資料目録・索引、デジタル版『木更津市史』、『市史研究』等の編集も行います。

通史編の刊行内容は、資料 12 ページに掲載しています。また民俗編は、市制施行前及び市町村合併前の 9 町村に区分して地区ごとで報告書を編集し、金田中島区の梵天立てなどの無形民俗文化財の DVD を編集します。

5 の編集計画の詳細は、17 から 24 ページの刊行計画に掲載していますが、本市基本構想の目標年次である平成 42 年度を目途に進めます。

6 の編集組織と、7 の市民協働については、議題第 1 号(1)で説明したように専門部会を設置し、市民ボランティアを募り進めます。説明は、以上です。

金子委員長 事務局より、議題第 2 号(2)の木更津市史編集基本構想及び基本方針の事務局案について、説明がありました。今の事務局案を踏まえて、委員の皆様の見解をお願いします。

小河原委員 事業の目標年次が平成 42 年とあるが、期間が長いと感じます。市史編集作業的にはこの位かかるのでしょうか。

事務局（小高副主幹）

17 ページから刊行計画を載せています。史料編、通史編等を編集するため、一つの部会で 3～5 年かかると見込んでいます。また全ての部会が一斉に作業を進めるということは、事務局の対応と予算措置の点から困難なため、いくつかの部会が編集作業の開始時期をずらして行うことを想定して提案しました。

小河原委員 13 ページの策定の趣旨に記載される木更津市基本構想は、企画部の所管で策定し、スタートしたばかりです。本市基本構想を踏まえて『木更津市史』を編集することになると、平成 42 年の終了年次の翌年には新しい市の基本構想が



始まります。本来は、もう少し早く編集作業を開始して、今の基本構想を追いかけるようにできないものでしょうか。

事務局（小高副主幹）

事業自体、予算との兼ね合いもできます。今年度第1回木更津市史編集委員会において他の自治体における市史刊行状況を説明しましたが、その中でも市史編集事業費は億を越えるものになっています。当然一度に実施するのは困難であり、事業費を各年度に配分して予算措置するとすれば、編集事業の実施期間も長くなります。市史編集事業は長期になるので、(史料編、通史編等を)まとめて刊行するのではなく、事業期間の中で各部会ごと順次史料編、通史編等を刊行し、刊行の順番は市史編集委員会委員の意見と協議します。

成田副委員長 15 ページ4の『木更津市史』の内容、構成についてですが、定期刊行物として調査・収集した資料を公表するための『市史研究』を、市史編集事業を実施する年度毎に1冊編集するとありますが、これは印刷物を刊行しますか。

事務局（小高副主幹）

『市史研究』を、PDF版をWeb上で公開するのか、印刷物として発行するか、今後も検討してください。

池田委員 『市史研究』は、色々な形態が考えられると思います。市によっては学術的な形態で刊行しているところもあり、これは大変だと思います。講座のようなものをまとめて公開することを目的にするのであれば、タイトルとして『市史研究』ではいかがなものでしょうか。方針あるいは目的に関して学術的に高いレベルを目指すこととの兼ね合いにもよりますが、こういった枠組みで編集物の方針や内容をよく練り上げてスタートする必要があります。

成果の発信は市の重要な課題です。CDやDVDがニューメディアとしていつまで生きて延びるのか、長期的な計画なので疑問です。何を資料として調査し、どういう範囲で残す方針を立てるのか、木更津市のあゆみを後世に伝える範囲を十分に考える。ここの部分をむしろ市民と共有することについて取り組んだほうがよいのではないのでしょうか。資料のあり方を検討するほうが基本方針として練り上げるべきところです。

實形委員 『市史研究』を1年1冊ずつ出し続けるのは事務局が大変。論文を書いてもらい、ストックがないと無理です。基本的に『市史研究』として出すなら、後に通史編にいきっていくためのストックになります。『市史研究』の論文をわかりやすくしたものが通史編になります。活動がうまく回れば論文が出て『市史研究』も発行されますが、論文が集まらないと予算措置しても『市史研究』が

発行できなくなります。また学術論文だけではなく、こういった原稿を掲載するのか、『市史研究』のあり方を検討しなければなりません。今生きている方で、すでに歴史になっている方も多いので、まとめておくのはよいと思います。

また、紙面構成を考えながら『市史研究』の刊行目的も検討することになります。一番大きいのは、木更津市における修史事業のあり方をどう見出していくのか。策定の趣旨では、木更津市基本構想に則って事業を進めることになっていますが、これを次回の市史編集委員会でするのか。これまでの市史編集事業は、市制施行周年事業として実施していましたが、今回は新しいまちづくりに修史事業が必要不可欠であるということで進め、修史事業は木更津を知るために行います。木更津を知って未来の木更津をつくるための基になる。策定の趣旨の内容をベースにしなが、新しい木更津に対して修史事業を進めるのかを加えつつ進めて行くことになると思います。なお目標年次の平成 42 年は、木更津市基本構想の目標年次にあわせたということでしょうか。

小原委員 木更津市基本構想を策定したのは企画課です。基本構想は、おおまかな目標年次を定めてビジョンを策定します。年次も 5 年刻みで定め、長期であれば 2030 年、それより短ければ 2025 年、2020 年ですが、短すぎると金田地区の区画整理事業や、かずさアカデミアパークへの企業の進出などを考えるとスケジュール的に狭いので 2030 年に設定しました。

木更津市の人口は、全国的に人口減少している中、試算で 2025 年まで増加し、それ以降は減少します。減少したところで基本構想を見直すのが 2030 年位ということで、目標年次を 2030 年にしました。木更津市史編集事業もこれに合わせたということですが、各専門分野の研究者からみると市史編集事業に費やす期間は予算を考慮せずどの位になるとお考えですか。

事務局（小高副主幹）

木更津市史編集事業は予算を考慮しなくても数年で終わらず、10 年以上かかります。他の自治体においても、市史編集事業を 10 年以上かけて行っている自治体があります。また『図説 木更津のあゆみ』編集基本構想及び編集方針は、1 年以上かけて策定したので、木更津市史編集の基本構想及び基本方針の策定も十分時間をかけて検討していただきたい。本市の基本構想に木更津市史編集事業を載せたのは、この事業が市のまちづくりに係ることを前提にしているので、2030 年に決めました。

金子委員長 15 ページの 4（『木更津市史』の内容、構成について）では、定期刊行物として『市史研究』について意見が出ました。事務局は各委員の意見を配慮しな

から考えてください。他に意見はありますか。

事務局（小高副主幹）

『木更津市史』の内容及び構成で、「通史編」「史料編」「自然・地誌編」の提案について検討いただきたい。また「通史編」の内容は、「原始・古代編」「中世編」「近世編」「近現代編」「民俗編」の5冊という構成と各編の内容について、「史料編」は市史編集組織と含めあらためてご検討ください。

金子委員長 5編集期間及び刊行計画について意見ありますか。

石井委員 別表2新たな『木更津市史』刊行計画（案）に市史編集業務をプロポーザル方式で委託する場合は、平成26年度から候補者調査を開始し、平成27年度からプロポーザル選定委員会を設置、年度後半で業者委託することになっています。直営と業務委託では大きく違うので、事務局は直営と業務委託いずれの考えがあるか教えてください。

事務局（小高副主幹）

他の自治体の市史編集事業を踏まえ、直営方式と業務委託方式の2案を提案しました。委員の意見を受けながら決めたいが、本市基本構想の目標年次にあわせた木更津市史編集事業を実施するためには、計画（案）どおり平成26年度からプロポーザル候補者調査を開始しなければなりません。事前には出版社、印刷会社、IT関連企業等複数業者へ業務委託を担当者レベルで伺っていますが、10年以上の事業は受託できないと回答を受けています。現在、修史事業を業務委託する自治体は、自治体が別組織を作り業務委託しています。なお、外部委託するため、費用は試算で直営方式の1.5倍位を見込んでいます。

金子委員長 5編集期間及び刊行計画について意見ありますか。特になければ、6市史編集組織については、議題2(1)市史編集組織とともに再度協議することよろしいでしょうか。

各委員 了承

金子委員長 7市民協働（ボランティア）について意見ありますか。

成田副委員長 市民や地域、大学や市内外の研究機関と協議し、地域の歴史を掘り起こすことに努めるとありますが、自然という言葉をお願いしたい。

事務局（高橋文化課長）

承知しました。

實形委員 別表2新たな『木更津市史』刊行計画を1ページにまとめてください。

事務局（小高副主幹）

「通史編」「史料編」「自然・地誌編」等の編集組織の見直しがありますが、

今回（案）で作成してよろしいでしょうか。

各委員 了承

金子委員長 議題 2 についていくつか意見が出されました。また改めていくつかの提案が出されました。事務局からは何かありますか。

事務局（高橋文化課長）

ありません。

金子委員長 本日の審議について、このあたりで終了します。事務局は本日の意見を整理し、次回の市史編集委員会の議題内容の検討願います。

それでは、本日の議事は以上で終了となりますので議長の職を解かせていただきます。ありがとうございました。

事務局（高橋文化課長）

金子委員長ありがとうございました。以上を持ちまして、第 4 回木更津市史編集委員会を終了します。次回の市史編集委員会の開催は、来年度の平成 26 年 5 月頃を予定します。

開催日が決まり次第ご案内しますので、よろしくお願ひします。また、編集委員会とは関係ありませんが、現在郷土博物館金のすずにおいて企画展「上総国古文書」展を 3 月 15 日から 6 月 15 日までの 3 ヶ月間開催していますので観覧ください。

委員の皆様方には長時間にわたり審議いただきました。これをもちまして本日の委員会を終了します。ありがとうございました。

平成 26 年 3 月 26 日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 金子 馨